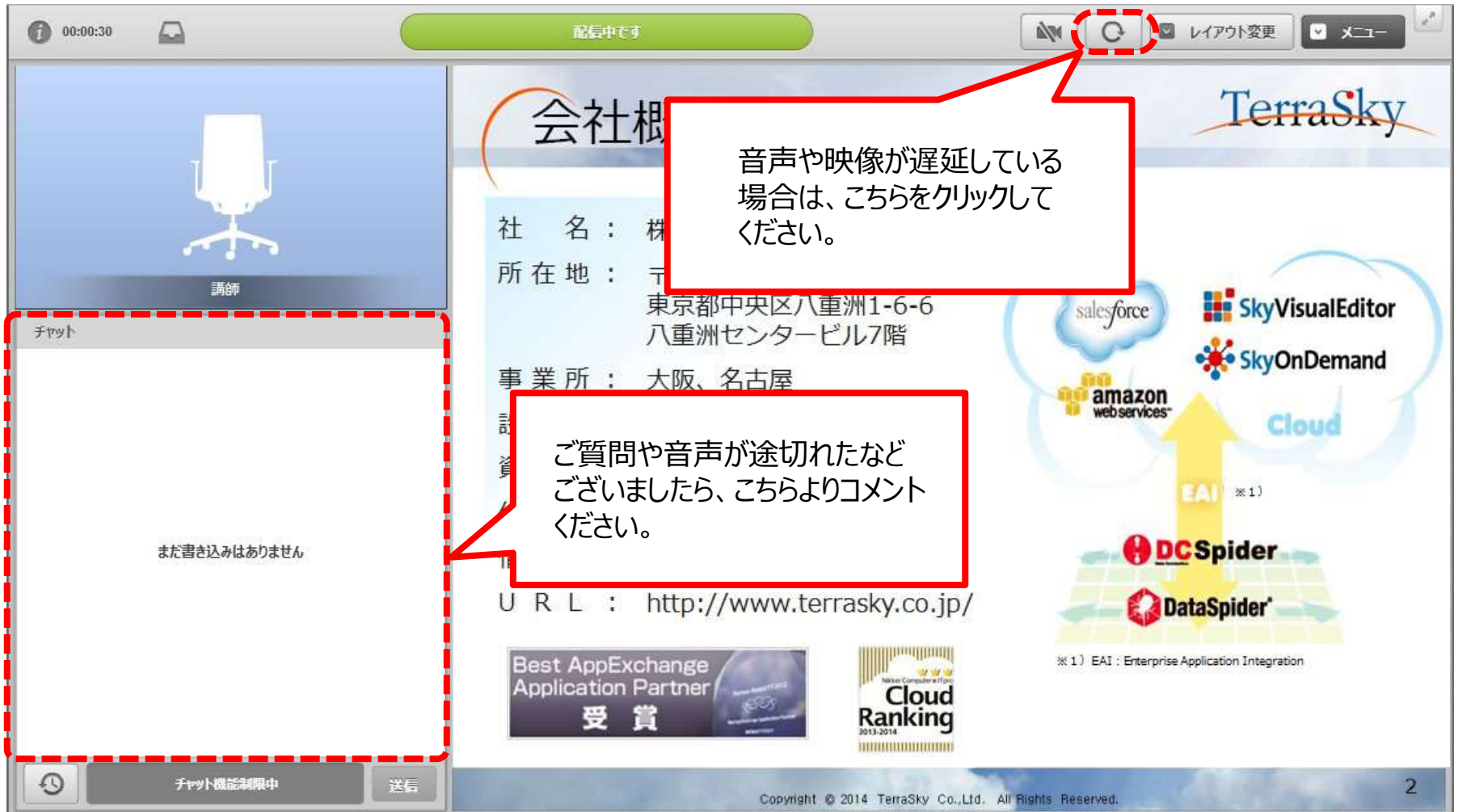


SkyOnDemandオンラインセミナー

～第9回：応用編～

作ってみよう【1】 実践的！高度な連携処理の作成



00:00:30 配信中です

音声や映像が遅延している場合は、こちらをクリックしてください。

会社概

社名： 株
所在地： 〒
東京都中央区八重洲1-6-6
八重洲センタービル7階
事業所： 大阪、名古屋

ご質問や音声が届かなかったなどございましたら、こちらよりコメントください。

URL : <http://www.terrasky.co.jp/>

まだ書き込みはありません

チャット機能制限中 送信

Copyright © 2014 TerraSky Co.,Ltd. All Rights Reserved.

2

SkyOnDemandの活用術を、毎月テーマに沿ってお届けします。
過去のウェビナーの動画・資料は、下記URLよりご覧頂けます。

<http://www.terrasky.co.jp/document/skyondemand/>



The screenshot shows a web browser window with the URL www.terrasky.co.jp/document/skyondemand/. The page features the TerraSky logo and navigation links for products, services, case studies, and company information. The breadcrumb trail indicates the location: HOME > コンテンツライブラリ > SkyOnDemand/DCSpider. The main heading is "資料ダウンロード : SkyOnDemand/DCSpider". Two seminar entries are listed:

- SkyOnDemand オンラインセミナー ～第2回 基本編～**
2014年06月19日 | SkyOnDemand/DCSpider
さわってみよう【1】 取引先データをSalesforceへファイル連携 (25分)
- SkyOnDemand オンラインセミナー ～第1回 準備編～**
2014年05月29日 | SkyOnDemand/DCSpider
SkyOnDemandにログインしてみよう (23分)

～第9回：応用編～

作ってみよう【1】 ～実践的！高度な連携処理の作成 前半～



本日のゴール

- ・例外監視処理、条件分岐処理、ログ出力処理を組み合わせ、より複雑な連携処理の作成方法を学ぶ。

本日作成するシナリオは以下の内容です。

実装する処理

CSV形式の取引先データをSalesforceの取引先オブジェクトにUPSERTする。

エラー内容と処理

- ①Salesforceに接続する際の接続エラーを検知し、ログに出力する。
- ②Salesforceの取引先オブジェクトへのUPSERTがエラーになったレコードがある場合は、エラーレコードをCSVファイルに出力します。

利用する処理

1. CSVファイル読み取り
2. Salesforceデータの書き込み(UPSERT)
3. 例外監視
4. 条件分岐
5. ログ出力
6. CSVファイル書き込み

1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する

CSV形式の取引先データを読み取り、Salesforceの取引先オブジェクトにUPSERTする。

- ① CSV「Account.csv」の読み取り
- ② Salesforceの「取引先」オブジェクトへ書込み

2. セールスフォースへの認証エラー対応処理を作成する

例外監視処理およびログ出力処理を利用し、セールスフォース認証エラーが発生した際に、ログを出力する処理を設定する。

- ① 「取引先のデータ取込み」処理を、例外監視対象に設定
- ② 例外処理(ログ出力)の設定

3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する

条件分岐処理を作成し、取引先オブジェクトへのUPSERTがエラーになった際に、エラーとなったレコードを、エラーCSVに出力する。

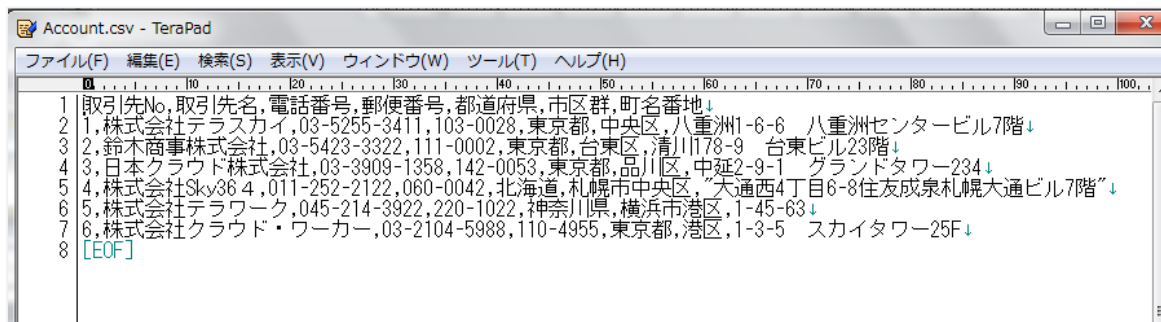
- ① 条件分岐処理でUPSERTエラー件数を判定
- ② エラーとなったレコードをCSVに出力

入力元と出力先イメージ

入力元CSVファイル

6件の取引先レコード

レコードの内容：取引先No、取引先名、電話番号、郵便番号、都道府県、市区群、町名番地



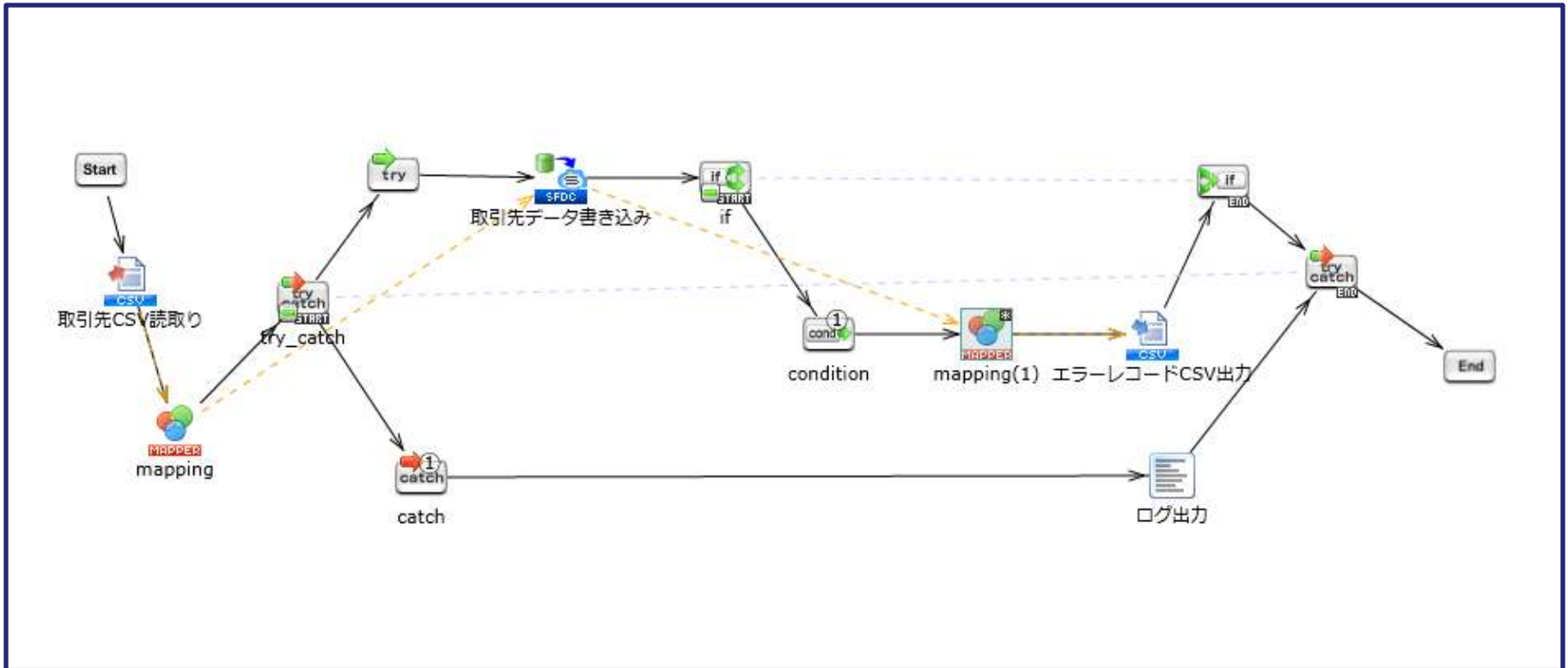
```
Account.csv - TeraPad
ファイル(F) 編集(E) 検索(S) 表示(V) ウィンドウ(W) ツール(T) ヘルプ(H)
1 取引先No,取引先名,電話番号,郵便番号,都道府県,市区群,町名番地↓
2 1,株式会社テラスカイ,03-5255-3411,103-0028,東京都,中央区,八重洲1-6-6 八重洲センタービル7階↓
3 2,鈴木商事株式会社,03-5423-3322,111-0002,東京都,台東区,清川1-78-9 台東ビル23階↓
4 3,日本クラウド株式会社,03-3909-1358,142-0053,東京都,品川区,中延2-9-1 グランドタワー234↓
5 4,株式会社Sky364,011-252-2122,060-0042,北海道,札幌市中央区,大通西4丁目6-8住友成泉札幌大通ビル7階↓
6 5,株式会社テラワーク,045-214-3922,220-1022,神奈川県,横浜市港区,1-45-63↓
7 6,株式会社クラウド・ワーカー,03-2104-5988,110-4955,東京都,港区,1-3-5 スカイタワー25F↓
8 [EOF]
```

出力先Salesforce取引先オブジェクト



アクション	取引先No ↑	取引先名	電話	郵便番号(請求先)	都道府県(請求先)	市区郡(請求先)
編集 削除 +	1	株式会社テラスカイ	03-5255-3411	103-0028	東京都	中央区
編集 削除 +	2	鈴木商事株式会社	03-5423-3322	111-0002	東京都	台東区
編集 削除 +	3	日本クラウド株式会社	03-3909-1358	142-0053	東京都	品川区
編集 削除 +	4	株式会社Sky364	011-252-2122	060-0042	北海道	札幌市中央区
編集 削除 +	5	株式会社テラワーク	045-214-3922	220-1022	神奈川県	横浜市港区
編集 削除 +	6	株式会社クラウド・ワ...	03-2104-5988	110-4955	東京都	港区

連携処理完成後のスクリプトイメージ



作ってみよう！

①グローバルリソースの設定

- WebStudioのメニューバーより、**コントロールパネル**> **グローバルリソース**の設定を選択
- 新しいグローバルリソースの追加> リソースの種類の選択
クラウド> **Salesforce**を選択し、接続先SalesforceのID/PWを登録

※詳細は、「第2回基本編 さわってみよう① 取引先データをSalesforceにファイル連携」をご確認ください。

▼コントロールパネル



▼グローバルリソース設定画面



②アプリケーションログ出力先の設定

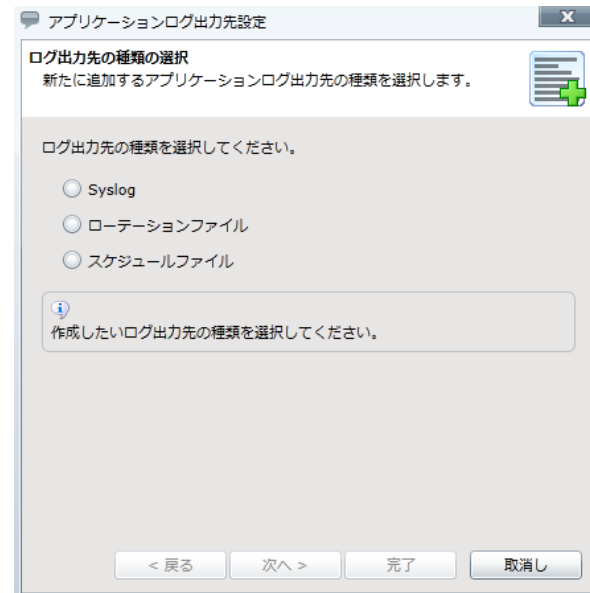
- WebStudioのメニューバーより、コントロールパネル> アプリケーションログ出力先の設定を選択
- 新しいアプリケーションログ出力先の設定よりログの出力先を設定

※詳細は、「第8回：基本編 使ってみよう③ エラー処理で効率的な運用を実現」をご確認ください。

▼コントロールパネル



▼アプリケーションログ出力先設定画面



1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する

CSV形式の取引先データを読み取り、Salesforceの取引先オブジェクトにUPSERTする。

- ① CSV「Account.csv」の読み取り
- ② Salesforceの「取引先」オブジェクトへ書込み

2. セールスフォースへの認証エラー対応処理を作成する

例外監視処理およびログ出力処理を利用し、セールスフォース認証エラーが発生した際に、ログを出力する処理を設定する。

- ① 「取引先のデータ取込み」処理を、例外監視対象に設定
- ② 例外処理(ログ出力)の設定

3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する

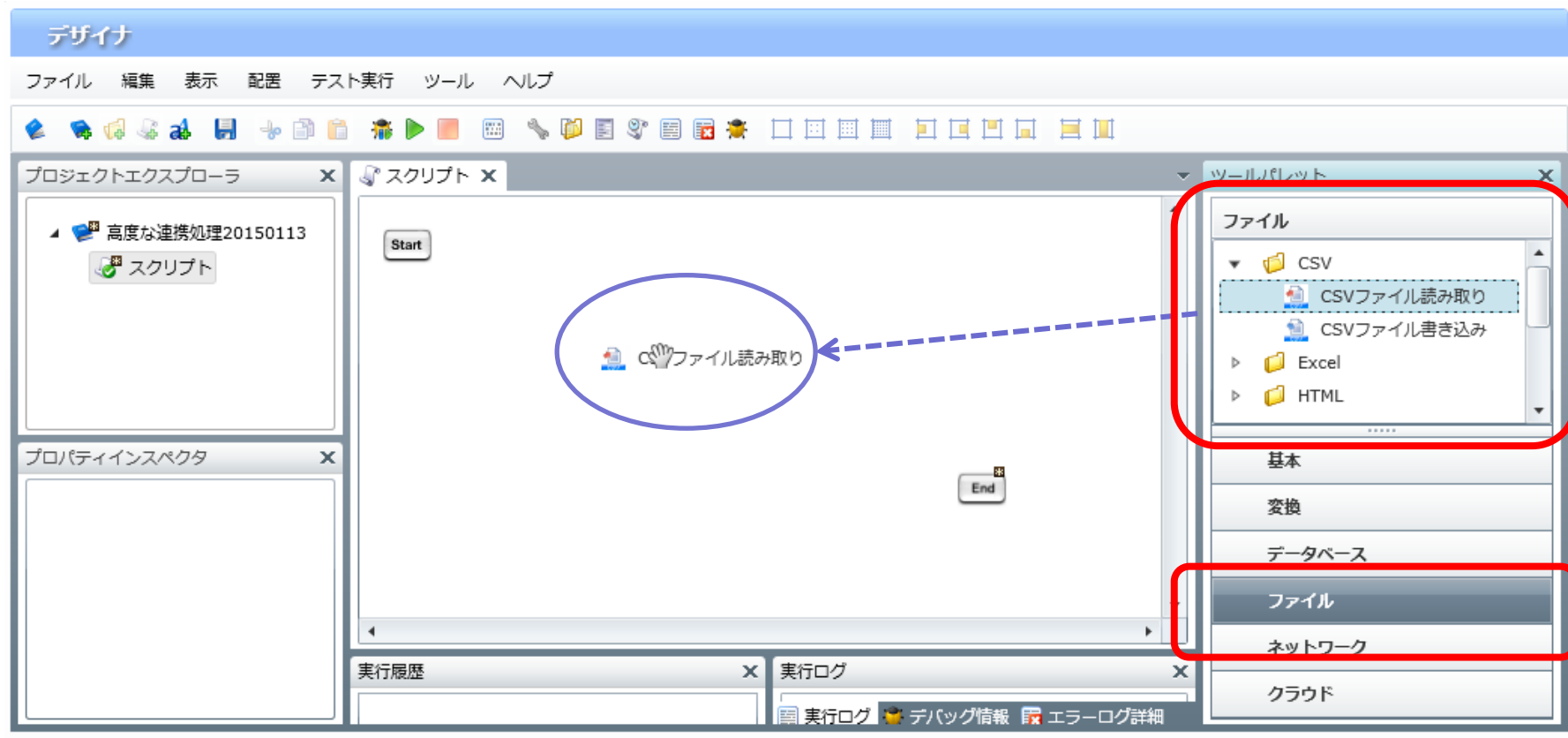
条件分岐処理を作成し、取引先オブジェクトへのUPSERTがエラーになった際に、エラーとなったレコードを、エラーCSVに出力する。

- ① 条件分岐処理でUPSERTエラー件数を判定
- ② エラーとなったレコードをCSVに出力

1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する(1/8)

① CSV「Account.csv」の読み取り

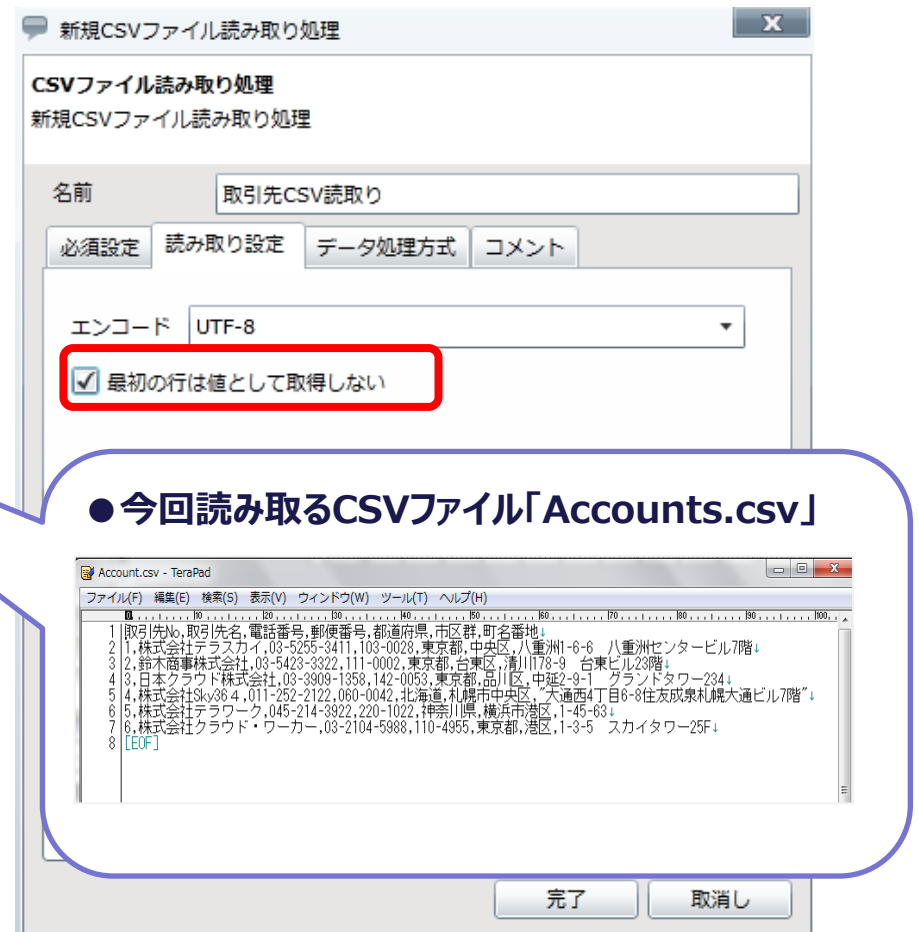
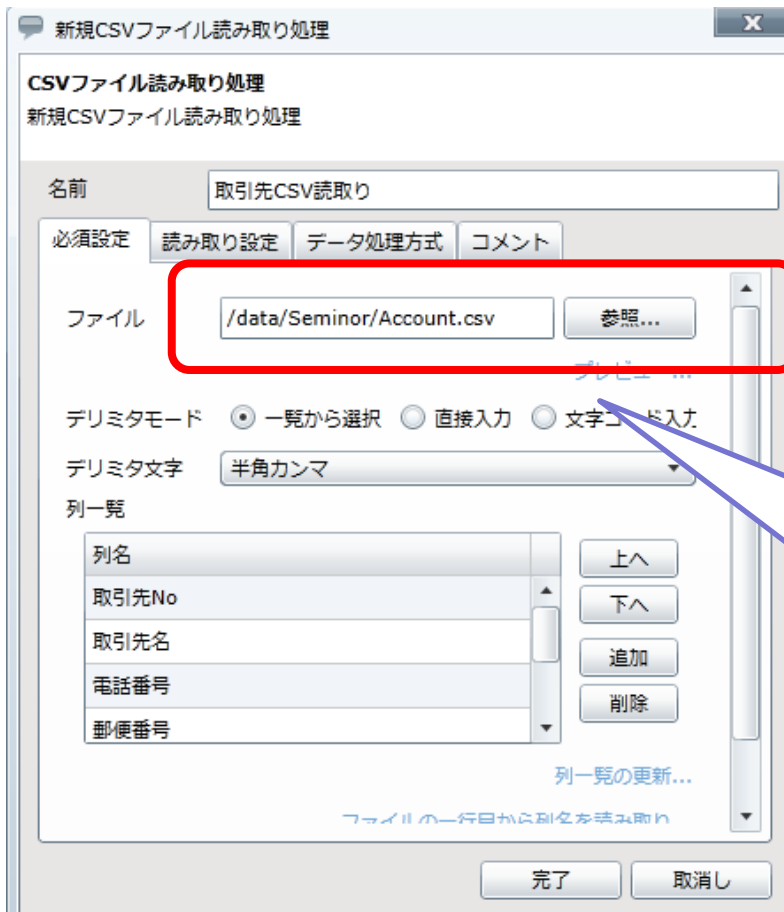
ツールパレット> ファイル> CSV> CSVファイル読み取りアイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップします。



1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する(2/8)

① CSV「Account.csv」の読み取り

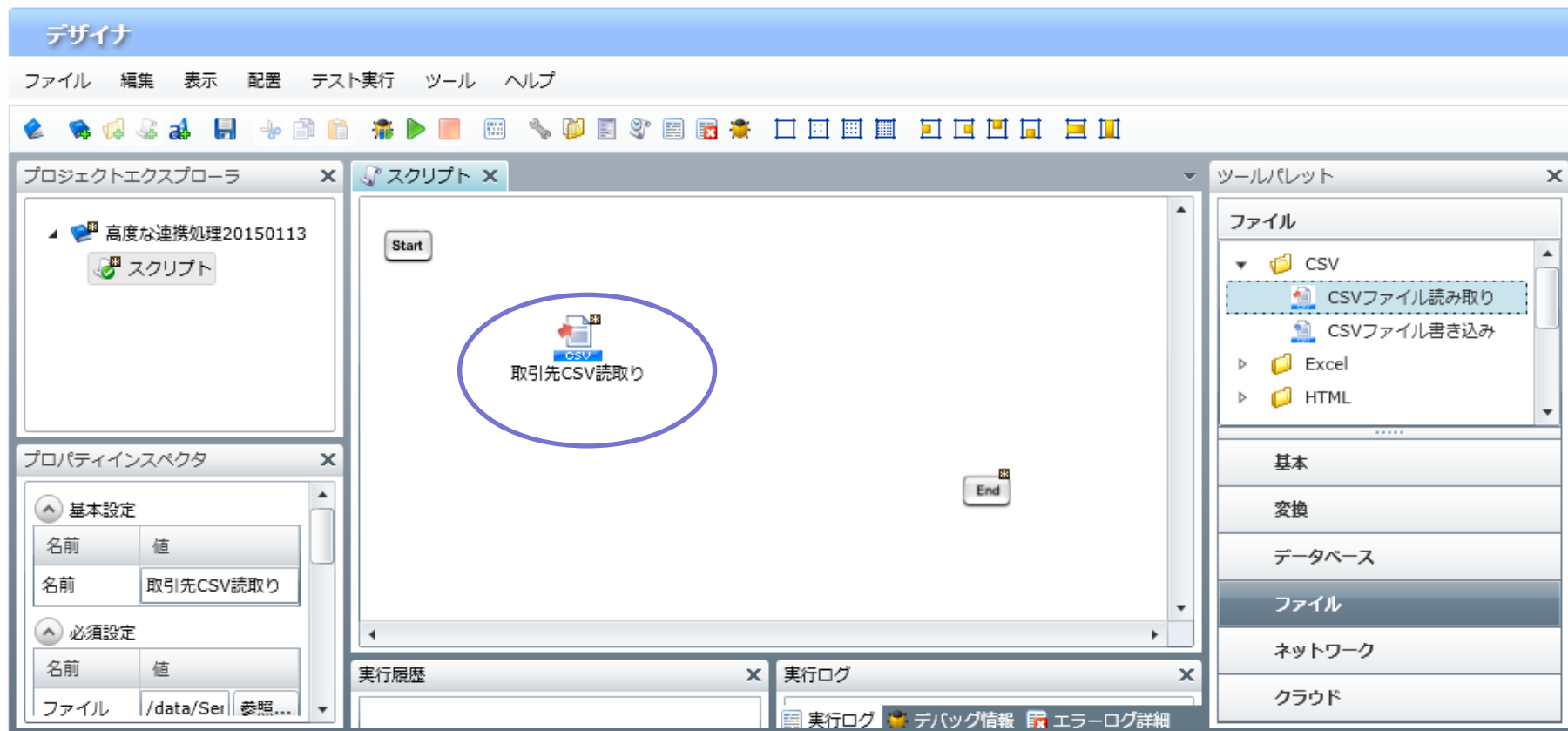
- CSVファイル読み取りウィンドウが表示されます。ファイルの格納先を選択し、列一覧の更新をクリックします。
- 「読み取り設定」タブを開き、「最初の行は値として取得しない」にチェックを入れます。
- 完了をクリックします。



1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する(3/8)

① CSV「Account.csv」の読み取り

CSVファイルの読み取り設定は完了です。

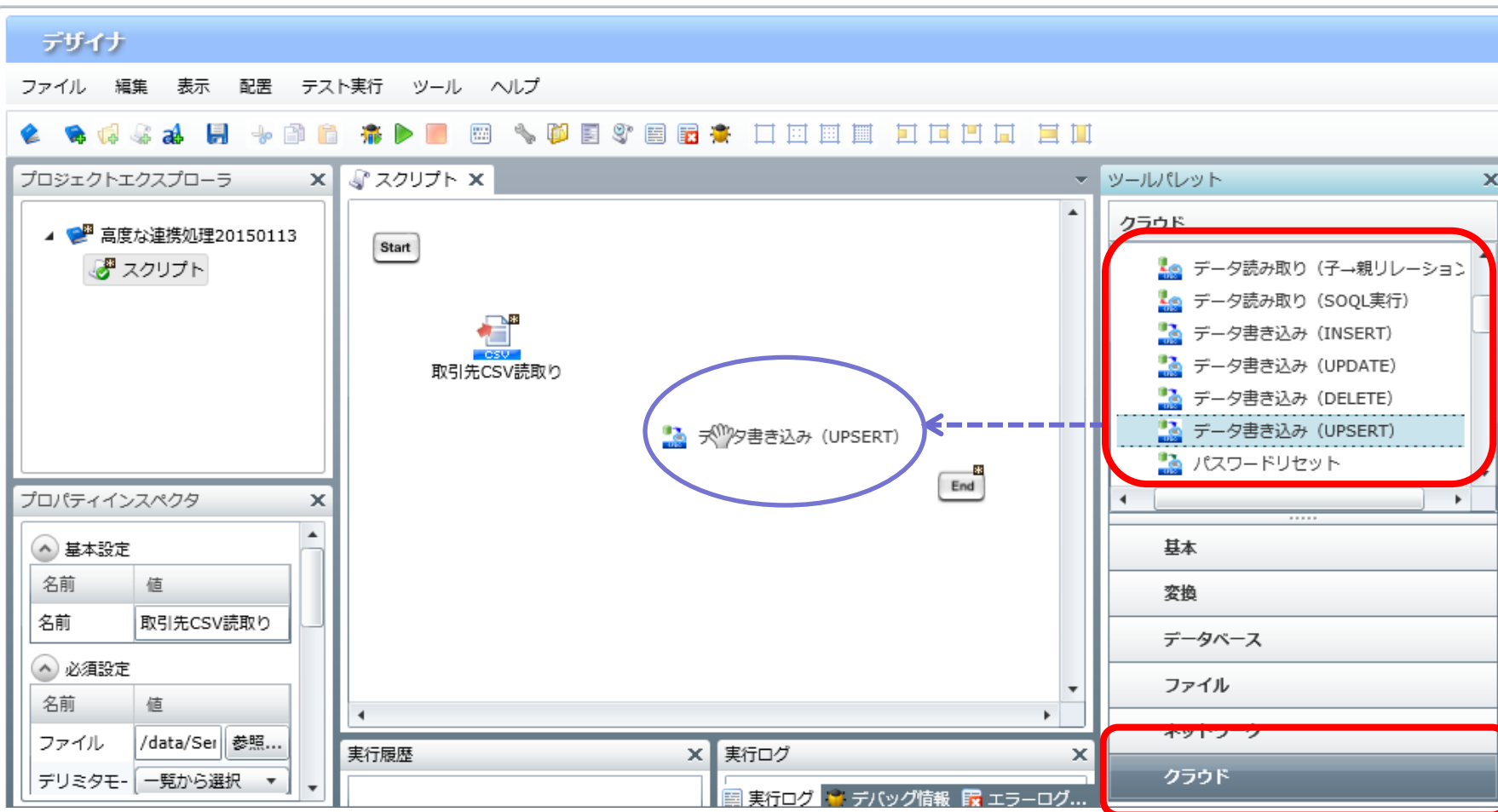


The screenshot displays the 'Design' (デザイン) environment. The main workspace shows a script flow starting with a 'Start' button, followed by a '取引先CSV読み取り' (Retrieve Customer CSV) task, and ending with an 'End' button. The '取引先CSV読み取り' task is highlighted with a blue oval. The 'ツールパレット' (Tool Palette) on the right shows the 'CSV' folder expanded, with 'CSVファイル読み取り' (CSV File Reading) selected. The 'プロパティインスペクタ' (Property Inspector) on the left shows the '基本設定' (Basic Settings) tab, where the '名前' (Name) is set to '取引先CSV読み取り'. The '実行履歴' (Execution History) and '実行ログ' (Execution Log) panels are visible at the bottom.

1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する(4/8)

②Salesforce「取引先」オブジェクトへの書き込み

ツールパレット> クラウド> Salesforce> 「データ書き込み(UPSERT)」アイコンをキャンバスにドラッグ&ドロップします。



1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する(5/8)

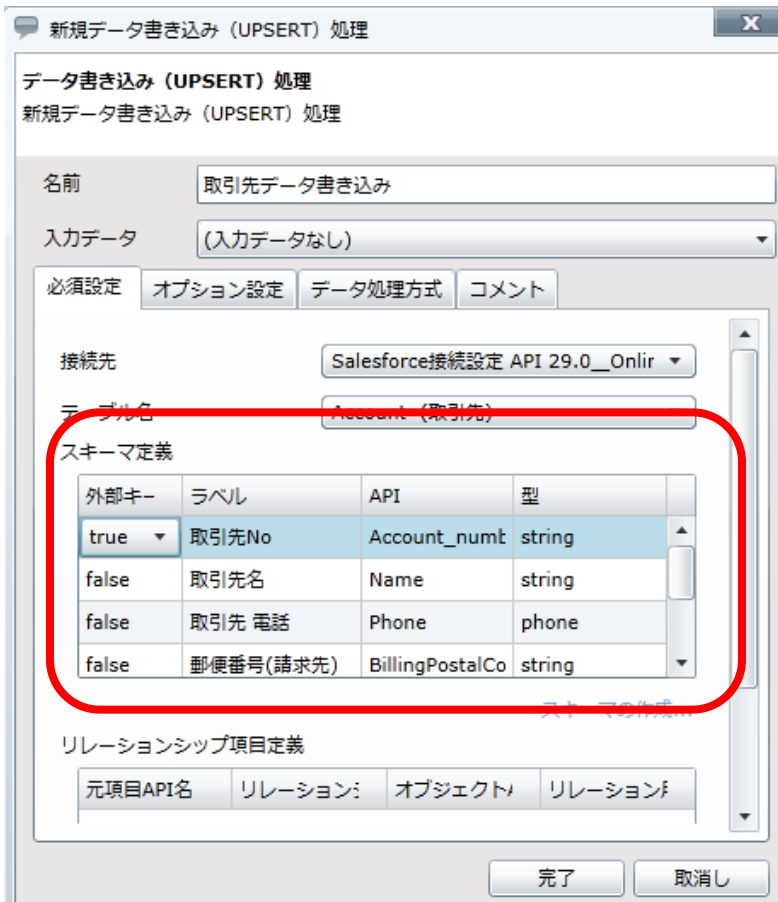
②Salesforce「取引先」オブジェクトへの書き込み

接続先：あらかじめグローバルリソースで設定をした接続先のSalesforceを選択

テーブル名：「Account(取引先)」を選択

スキーマの作成：取引先No、取引先名、郵便番号、都道府県、市区群、町名・番地を選択

オプション設定タブ：「更新結果取得処理」の「取得する」を選択します。(デフォルトは「取得する」です。)



新規データ書き込み (UPSERT) 処理

データ書き込み (UPSERT) 処理
新規データ書き込み (UPSERT) 処理

名前: 取引先データ書き込み

入力データ: (入力データなし)

必須設定 オプション設定 データ処理方式 コメント

接続先: Salesforce接続設定 API 29.0_Onlir

テーブル名: Account (取引先)

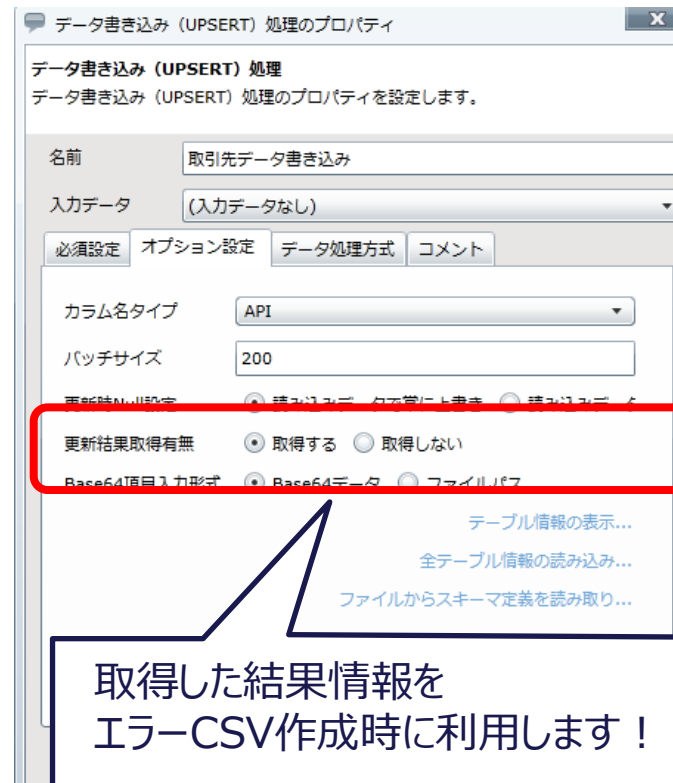
スキーマ定義

外部キー	ラベル	API	型
true	取引先No	Account_numt	string
false	取引先名	Name	string
false	取引先 電話	Phone	phone
false	郵便番号(請求先)	BillingPostalCo	string

リレーションシップ項目定義

元項目API名	リレーション:	オブジェクト:	リレーション:

完了 取消し



データ書き込み (UPSERT) 処理のプロパティ

データ書き込み (UPSERT) 処理
データ書き込み (UPSERT) 処理のプロパティを設定します。

名前: 取引先データ書き込み

入力データ: (入力データなし)

必須設定 オプション設定 データ処理方式 コメント

カラム名タイプ: API

バッチサイズ: 200

更新結果取得有無: 取得する 取得しない

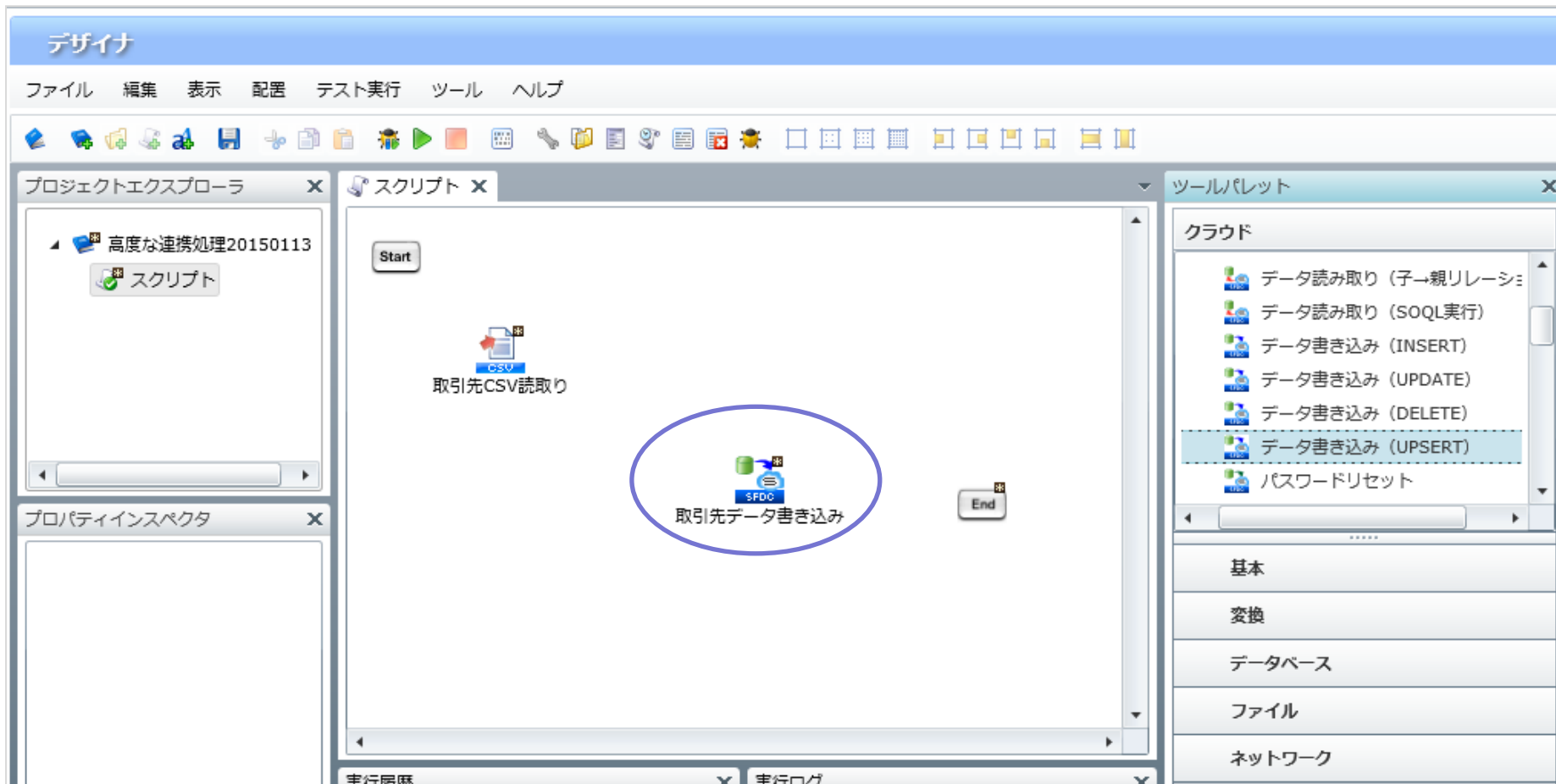
Base64項目入力形式: Base64データ ファイルパス

取得した結果情報を
エラーCSV作成時に利用します！

1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する(6/8)

②Salesforce「取引先」オブジェクトへの書き込み

取引先への書き込み設定は完了です。



The screenshot shows the 'デザイナー' (Designer) application window. The main workspace contains a workflow diagram with the following elements:

- Start** button at the top left.
- 取引先CSV読み取り** (Retrieve Customer CSV) step, represented by a document icon with a red arrow.
- 取引先データ書き込み** (Write Customer Data) step, represented by a database icon with a blue arrow, which is circled in blue.
- End** button at the bottom right.

On the right side, the 'ツールパレット' (Tool Palette) is open, showing a list of data processing tools under the 'クラウド' (Cloud) category:

- データ読み取り (子→親リレーシ)
- データ読み取り (SOQL実行)
- データ書き込み (INSERT)
- データ書き込み (UPDATE)
- データ書き込み (DELETE)
- データ書き込み (UPSERT)** (highlighted with a dashed border)
- パスワードリセット

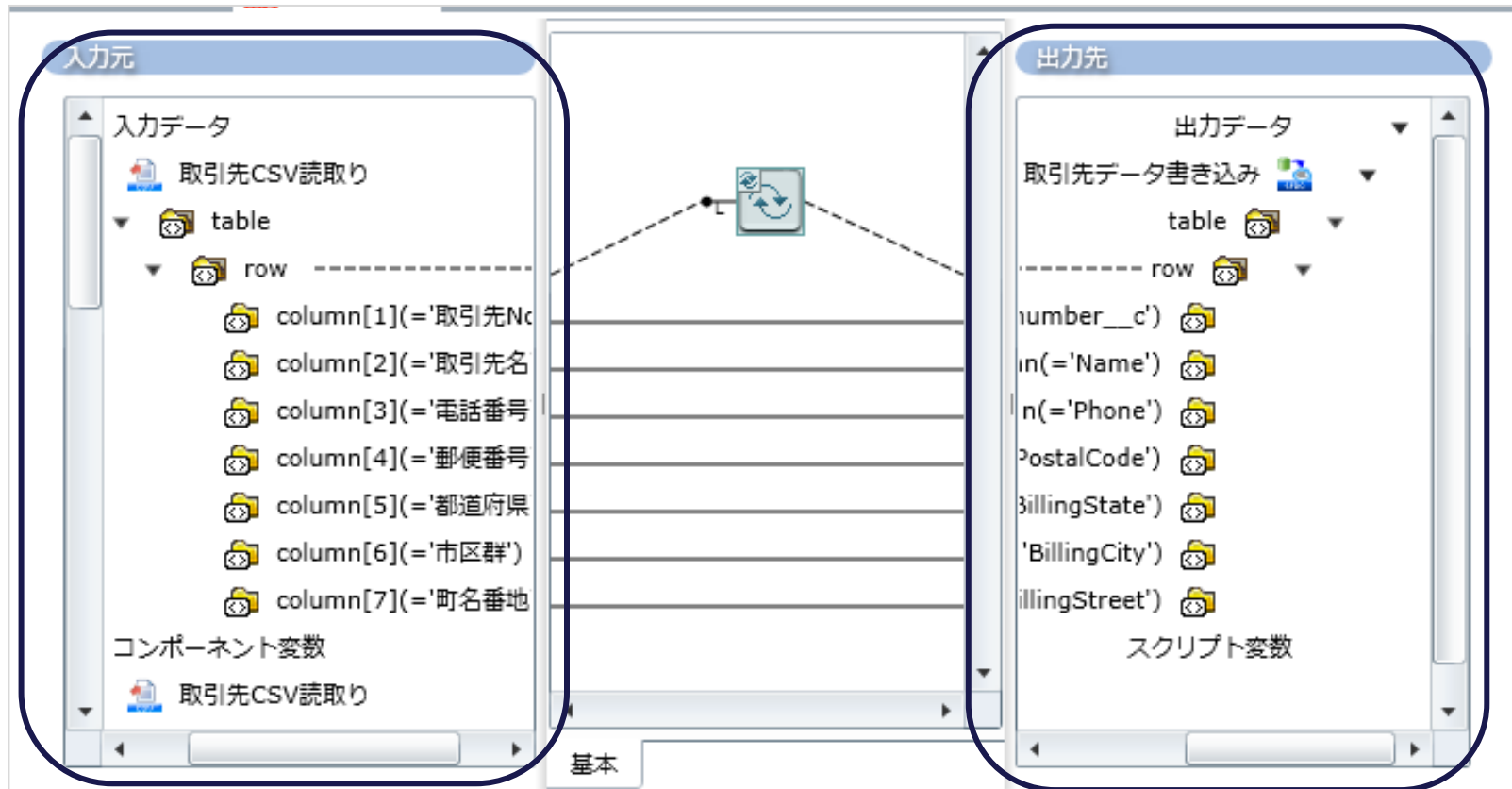
Below the tool list, there are tabs for '基本' (Basic), '変換' (Conversion), 'データベース' (Database), 'ファイル' (File), and 'ネットワーク' (Network).

1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する(7/8)

③ マッピング設定

CSVファイル読み取りのアイコン「取引先CSV読み取り」からSalesforceデータ書き込みのアイコン「取引先データ書き込み」へプロセスフローとデータフローを引き、マッピングを追加します。

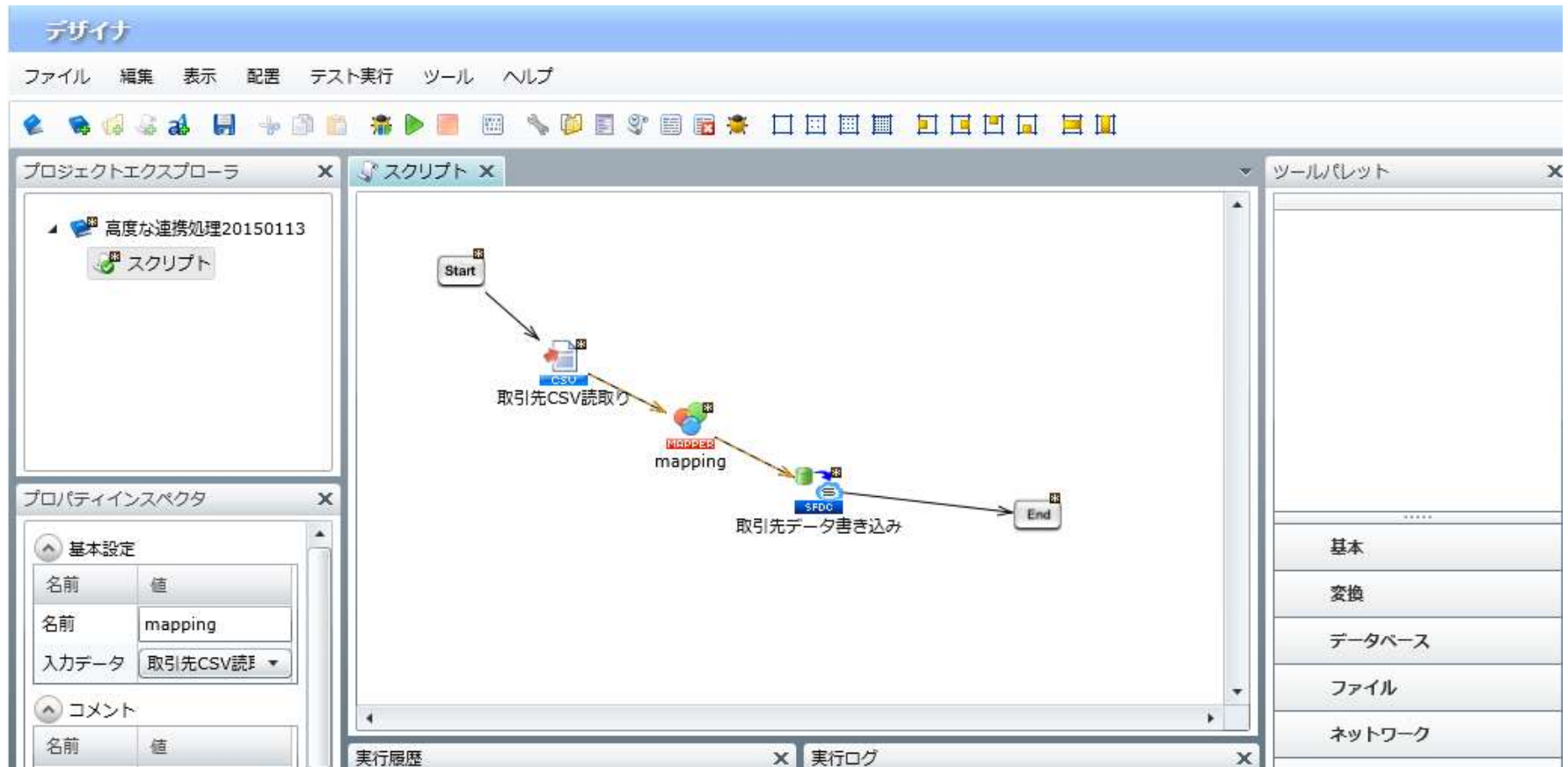
入力元から出力元へ項目の移送設定を行います。



※今回はデータの加工は行わず、項目移送のみで進めます。

1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する(8/8)

これで取引先データの取り込み処理は完成です。



The screenshot displays the 'デザイン' (Design) environment. The main workspace contains a workflow diagram with the following steps:

- Start
- 取引先CSV読取り (CSV Reader)
- mapping (Mapper)
- 取引先データ書き込み (CSV Writer)
- End

The 'プロパティインスペクタ' (Property Inspector) on the left shows the configuration for the 'mapping' component:

名前	値
名前	mapping
入力データ	取引先CSV読取り

The 'ツール/パレット' (Tool Palette) on the right lists various tool categories:

- 基本
- 変換
- データベース
- ファイル
- ネットワーク

連携処理作成ステップ

1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する

CSV形式の取引先データを読み取り、Salesforceの取引先オブジェクトにUPSERTする。

- ① CSV「Account.csv」の読み取り
- ② Salesforceの「取引先」オブジェクトへ書込み

2. セールスフォースへの認証エラー対応処理を作成する

例外監視処理およびログ出力処理を利用し、セールスフォース認証エラーが発生した際に、ログを出力する処理を設定する。

- ① 「取引先のデータ取込み」処理を、例外監視対象に設定
- ② 例外処理(ログ出力)の設定

3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する

条件分岐処理を作成し、取引先オブジェクトへのUPSERTがエラーになった際に、エラーとなったレコードを、エラーCSVに出力する。

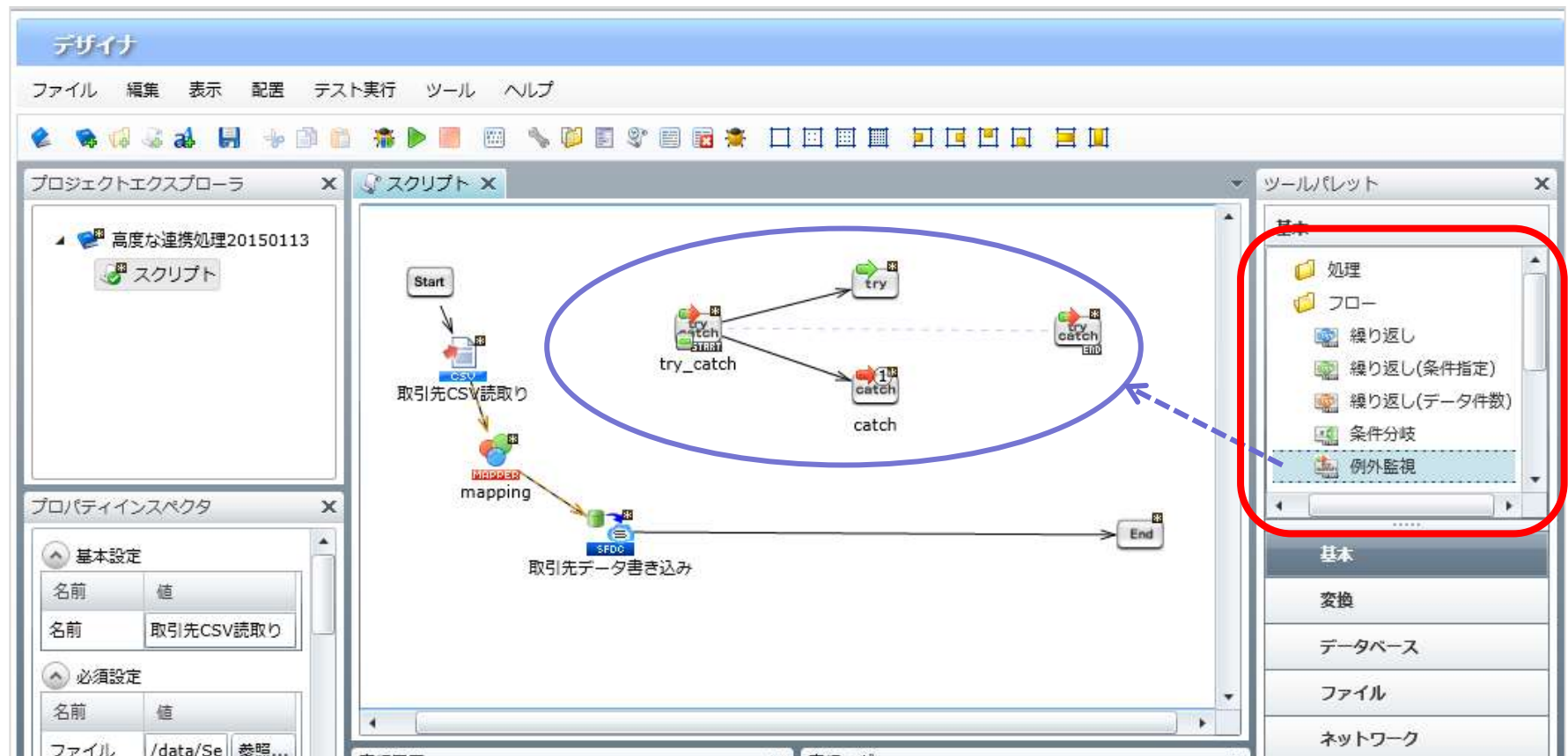
- ① 条件分岐処理でUPSERTエラー件数を判定
- ② エラーとなったレコードをCSVに出力

2. セールスフォースへの認証エラー対応処理を作成する(1/5)

①「取引先のデータ取込み」処理を、例外監視対象に設定

ツールパレット> 基本> フロー> 「例外監視」アイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップします。
例外監視アイコンはデフォルトが4つのアイコンで構成されています。

※例外監視アイコンの詳細説明は、第8回基本編のP19をご確認ください。



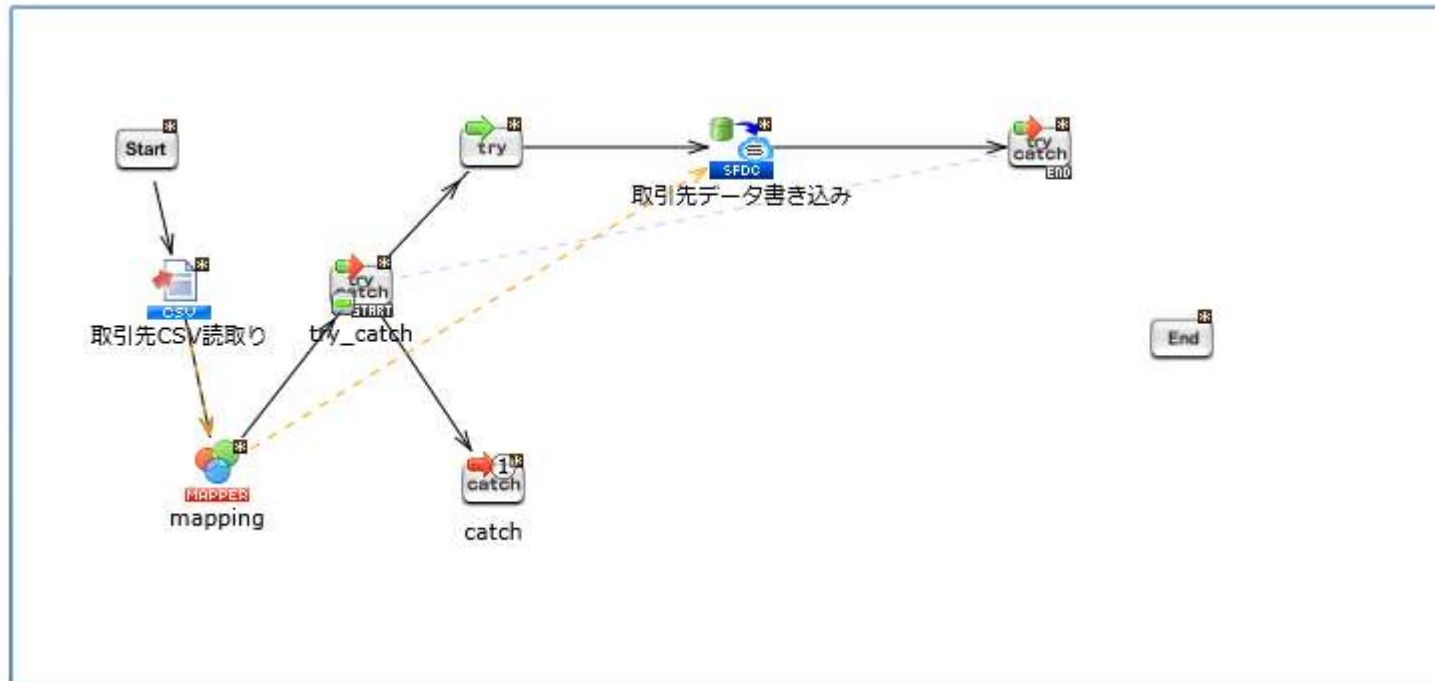
The screenshot displays the SkyOnDemand Designer interface. The main canvas shows a workflow diagram with the following steps: Start, CSV (取引先CSV読取り), MAPPER (mapping), SFDC (取引先データ書き込み), and End. A try-catch block is positioned between the CSV and SFDC steps, containing a try_start icon, a try icon, a catch icon, and a try_end icon. A blue oval highlights this try-catch block. On the right side, the 'ツールパレット' (Tool Palette) is open, showing a tree view with '基本' (Basic) selected. Under '基本', the '例外監視' (Exception Monitoring) icon is highlighted with a red dashed arrow and a red circle. The '例外監視' icon is composed of four sub-icons: try_start, try, catch, and try_end.

①「取引先のデータ取込み」処理を、例外監視対象に設定

監視処理アイコン「Try」の後ろに、例外監視の対象となる処理をつなぎます。

今回は、ステップ①で作成した取引先へのデータ書き込みを対象とするので、「Try」アイコンの後ろに「取引先データ書き込み」アイコンをつなぎます。

※データフローは「mapping」から「取引先データ書き込み」につないだままです。

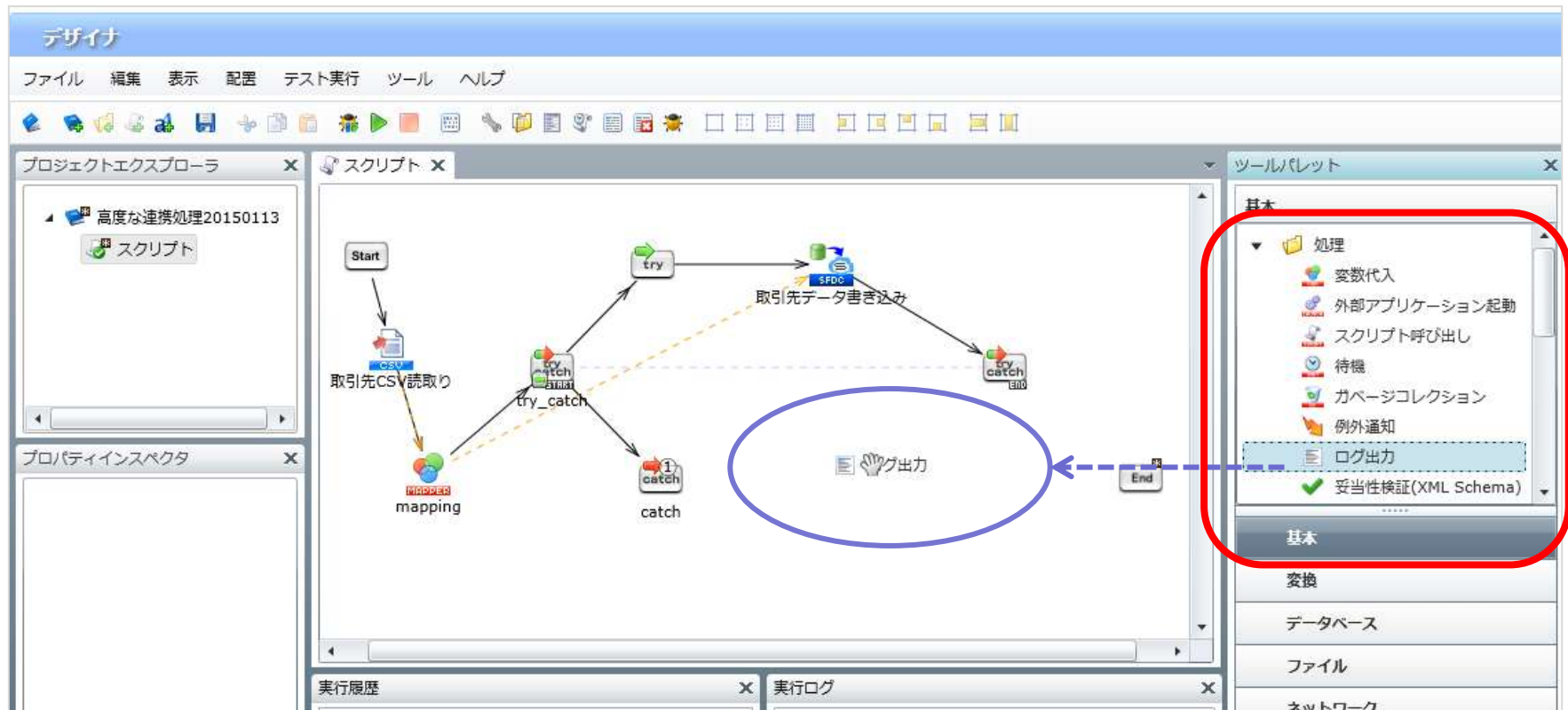


②例外処理(ログ出力)の設定

次に例外監視処理にてエラーが発生した場合の例外処理の設定を行います。

今回の例外処理はログの出力です。

ツールパレット > **基本** > **処理** > 「**ログ出力**」アイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップします。



The screenshot displays the SkyOnDemand design tool interface. The main canvas shows a workflow diagram with the following components and connections:

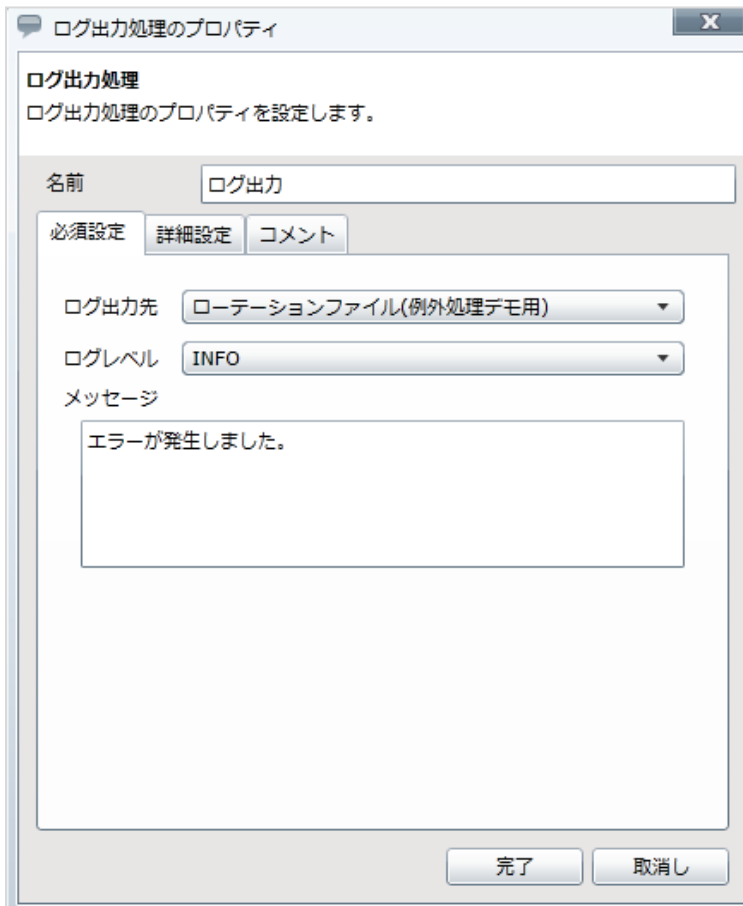
- Start** node connects to **取引先CSV読み取り** (CSV loading).
- 取引先CSV読み取り** connects to **mapping** (data mapping).
- mapping** connects to **try_catch** (try-catch block).
- try_catch** has two outgoing paths:
 - One path goes to **try** (try block), which then connects to **取引先データ書き込み** (data writing).
 - Another path goes to **catch** (catch block).
- try** connects to **catch_end** (end of catch block).
- catch** also connects to **catch_end**.
- catch_end** connects to **End** (final end node).

The **ツールパレット** (Tool Palette) on the right is highlighted with a red circle. It shows the **処理** (Process) category expanded, with **ログ出力** (Log Output) selected and highlighted with a dashed blue box. A blue arrow points from the **ログ出力** icon in the palette to the **ログ出力** icon on the canvas, which is also circled in blue.

②例外処理(ログ出力)の設定

ログ出力処理設定画面が表示されます。

予め作成しておいたログの出力先と、ログレベルを設定し、エラーメッセージを作成します。

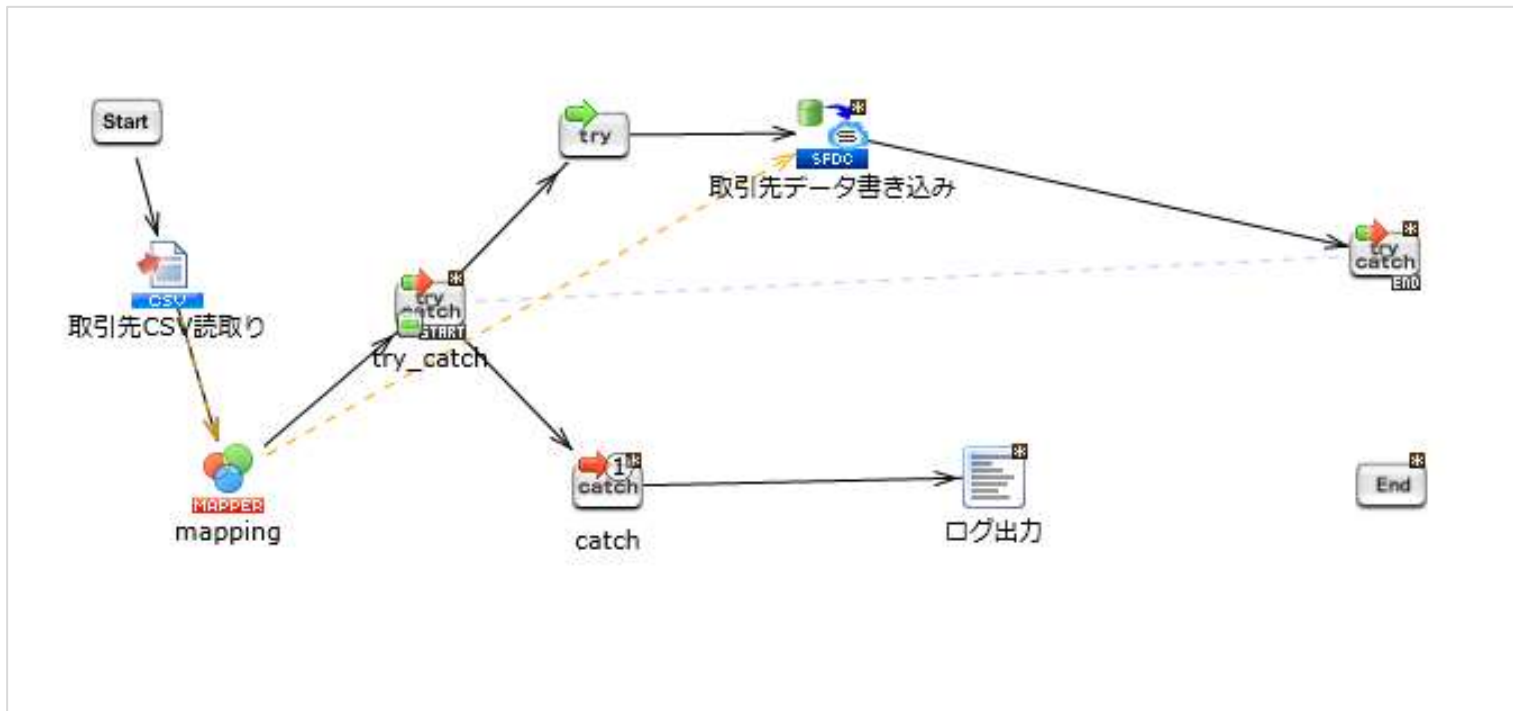


ログの出力は、あらかじめアプリケーションログの出力先設定を行っておく必要があります。**アプリケーションログの出力先の設定は、第8回基本編のP21～P24をご確認ください。**

2. セールスフォースへの認証エラー対応処理を作成する(5/5)

②例外処理(ログ出力)の設定

これで、「セールスフォースへの認証エラー時にログを出力する」が完了となります。



1. メイン処理「取引先データの取り込み」を作成する

CSV形式の取引先データを読み取り、Salesforceの取引先オブジェクトにUPSERTする。

- ① CSV「Account.csv」の読み取り
- ② Salesforceの「取引先」オブジェクトへ書込み

2. セールスフォースへの認証エラー対応処理を作成する

例外監視処理およびログ出力処理を利用し、セールスフォース認証エラーが発生した際に、ログを出力する処理を設定する。

- ① 「取引先のデータ取込み」処理を、例外監視対象に設定
- ② 例外処理(ログ出力)の設定

3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する

条件分岐処理を作成し、取引先オブジェクトへのUPSERTがエラーになった際に、エラーとなったレコードを、エラーCSVに出力する。

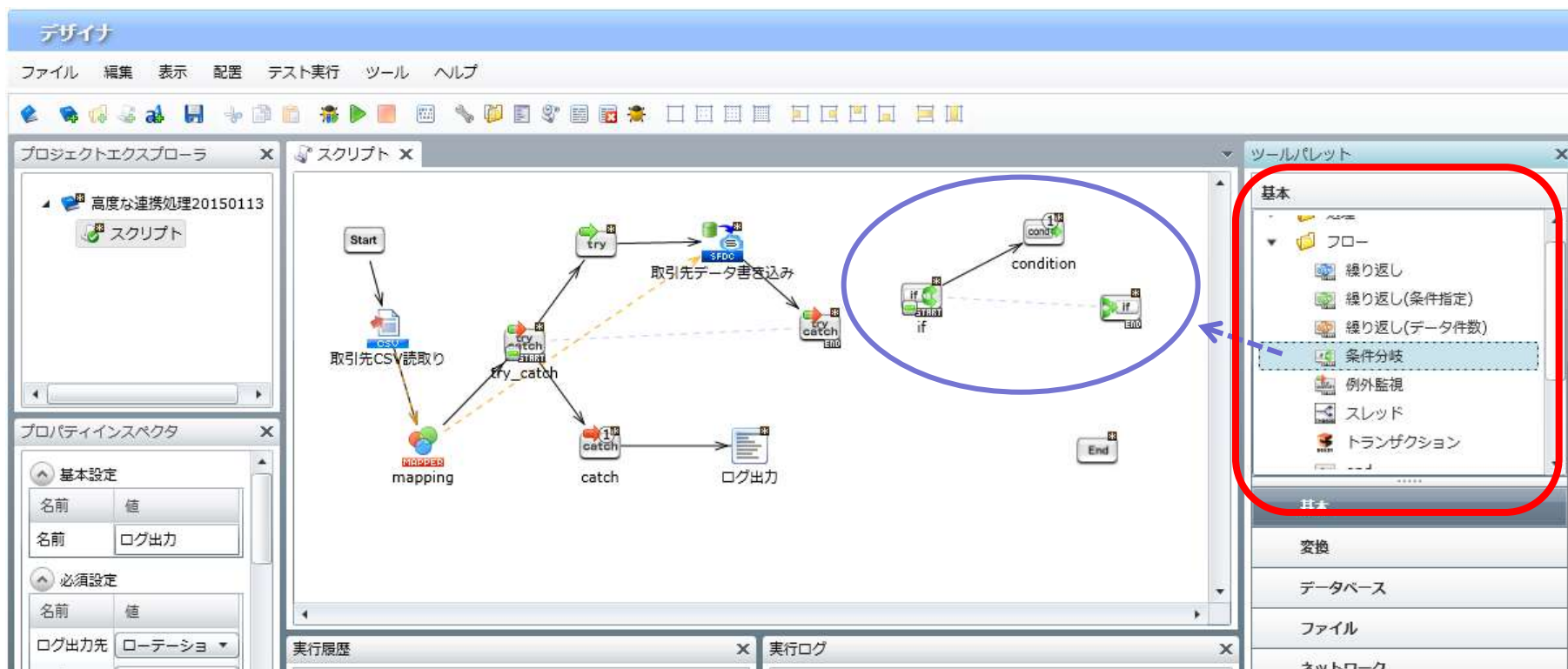
- ① 条件分岐処理でUPSERTエラー件数を判定
- ② エラーとなったレコードをCSVに出力

3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(1/11)

①条件分岐処理でUPSERTエラー件数を判定

ツールパレット> 基本> フロー> 「条件分岐」アイコンをキャンバスにドラッグ & ドロップいたします。
条件分岐アイコンはデフォルトで3つのアイコンで構成されています。

※条件分岐アイコンの詳細説明は、第6回基本編のP14～P29をご確認ください。

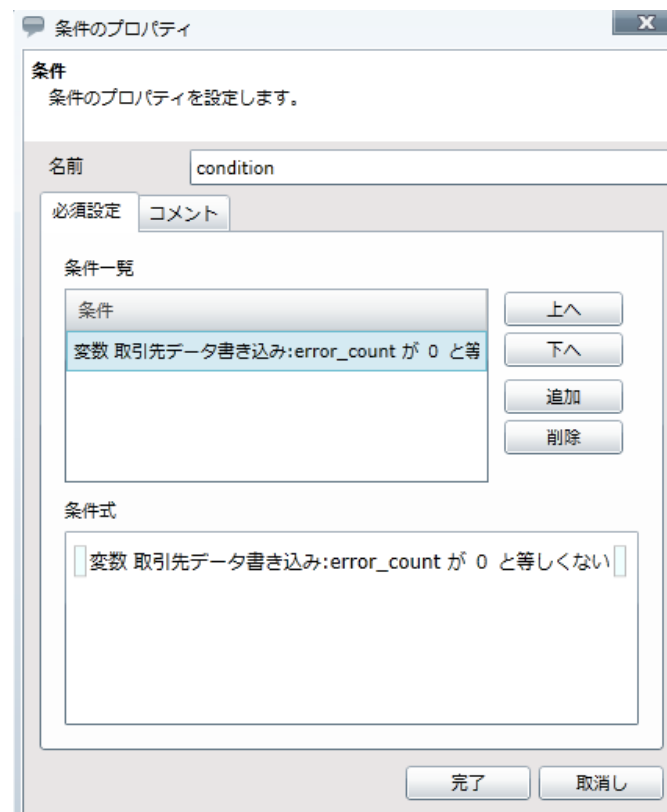
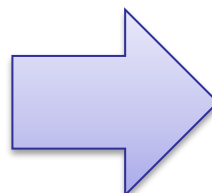
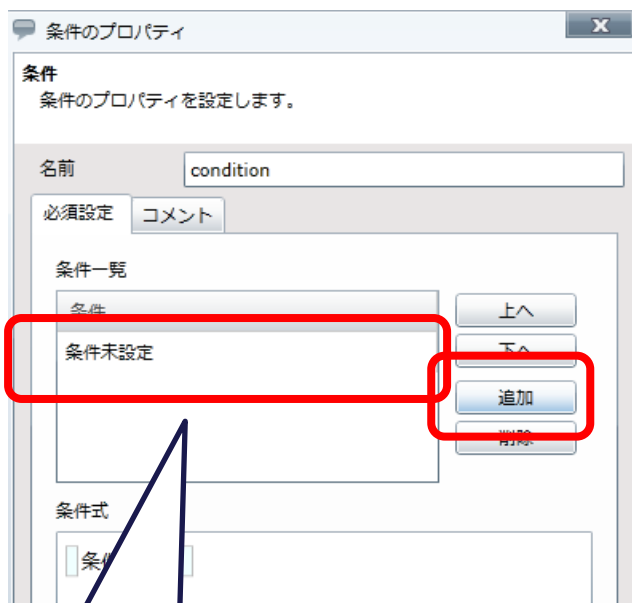


3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(2/11)

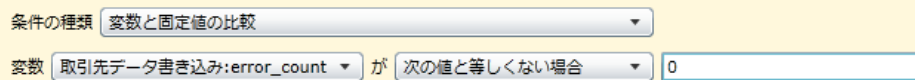
①条件分岐処理でUPSERTエラー件数を判定

条件(Condition)アイコンをクリックし、条件設定画面を開きます。

条件：「Salesforceの取引先オブジェクトにUPSERTができなかったレコードがある場合」という設定を行います。
追加ボタンをクリック>「条件未設定」をダブルクリックし、条件の設定を行います。



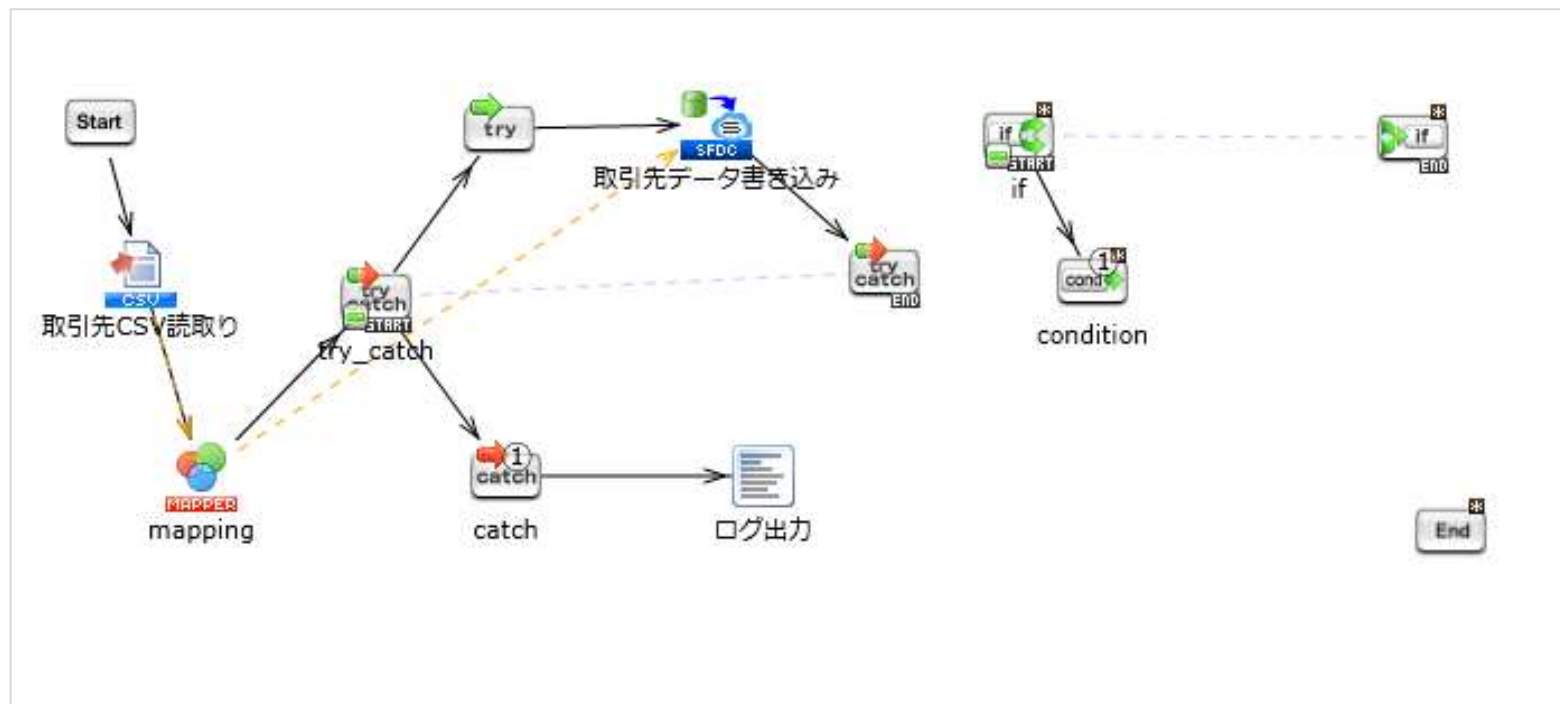
※今回は、「エラーカウント0と等しくない場合」という設定をしておきます。



3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(3/11)

①条件分岐処理でUPSERTエラー件数を判定

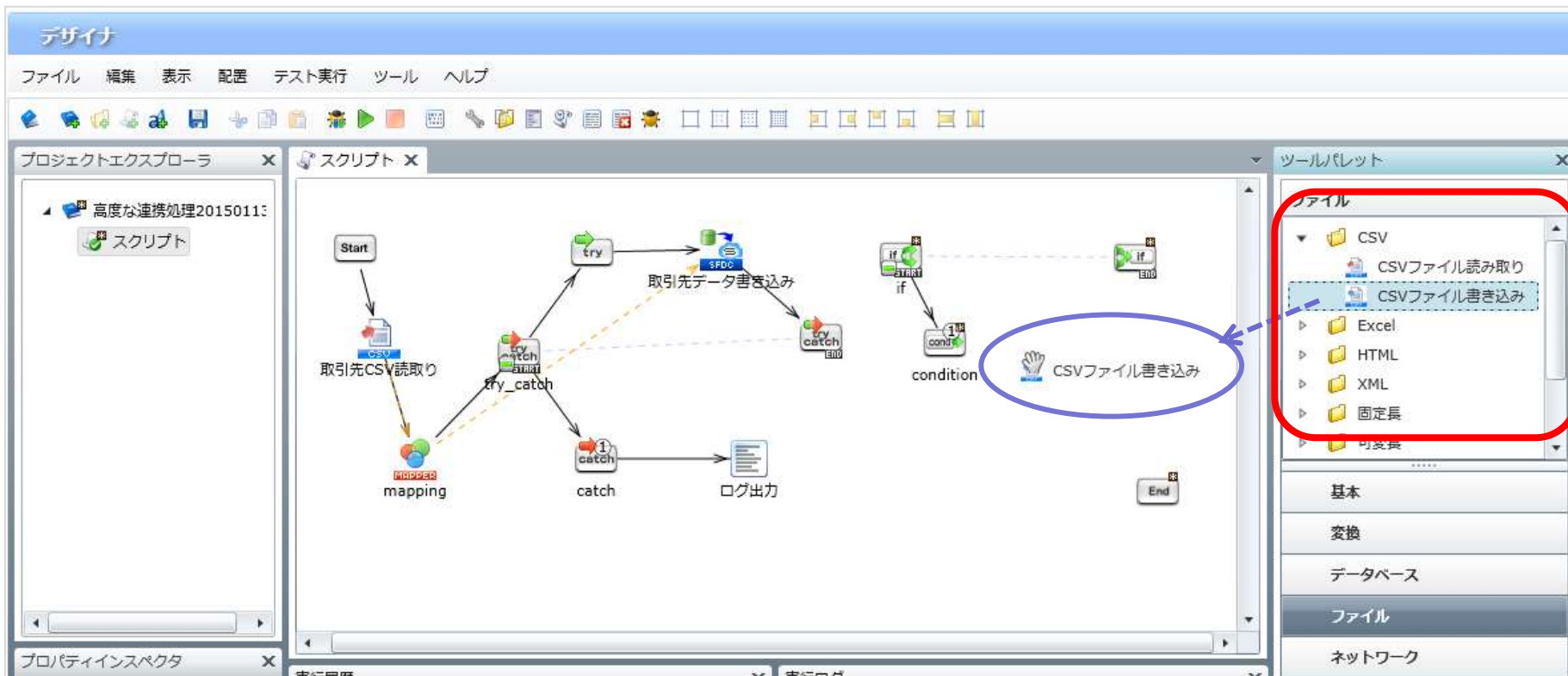
これで条件分岐処理の設定は完了です。



3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(4/11)

②エラーとなったレコードをCSVに出力

- ①の条件分岐処理でエラーレコードを判定した場合に、エラーレコードをCSVに出力する設定を行います。
ツールパレット>ファイル>CSV>「CSVファイル書き込み」アイコンをキャンバスにドラッグ&ドロップします。

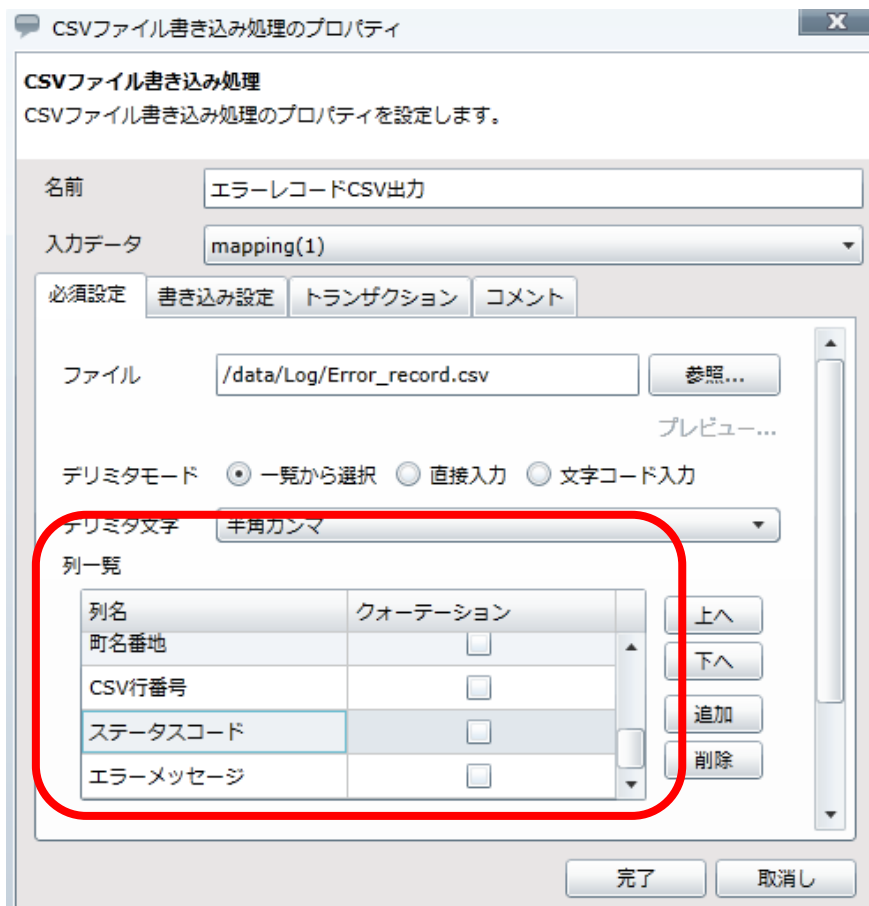


3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(5/11)

②エラーとなったレコードをCSVに出力

CSVファイル書き込み設定画面が表示されます。

エラーファイルの出力先を設定し、CSVファイルの列一覧を設定します。※オプション設定にて、「一行目に列名を挿入」に✓をいれます。



CSVファイル書き込み処理のプロパティ

CSVファイル書き込み処理
CSVファイル書き込み処理のプロパティを設定します。

名前: エラーレコードCSV出力

入力データ: mapping(1)

必須設定: 書き込み設定 | トランザクション | コメント

ファイル: /data/Log/Error_record.csv [参照...]

プレビュー...

デリミタモード: 一覧から選択 直接入力 文字コード入力

デリミタ文字: 半角カンマ

列一覧

列名	クォーテーション
町名番地	<input type="checkbox"/>
CSV行番号	<input type="checkbox"/>
ステータスコード	<input type="checkbox"/>
エラーメッセージ	<input type="checkbox"/>

上へ
下へ
追加
削除

完了 取消し



※エラーレコード出力のポイント

列一覧の設定時に、更新したデータに加えUPSERT処理の更新結果として、以下3項目を受け渡すための、項目を追加します。

- CSV行番号
- ステータスコード
- エラーメッセージ

これらの更新結果は、データ書き込み(UPSERT)処理のオプション設定にて、更新結果取得を「取得する」にすると、結果を取得することができます。

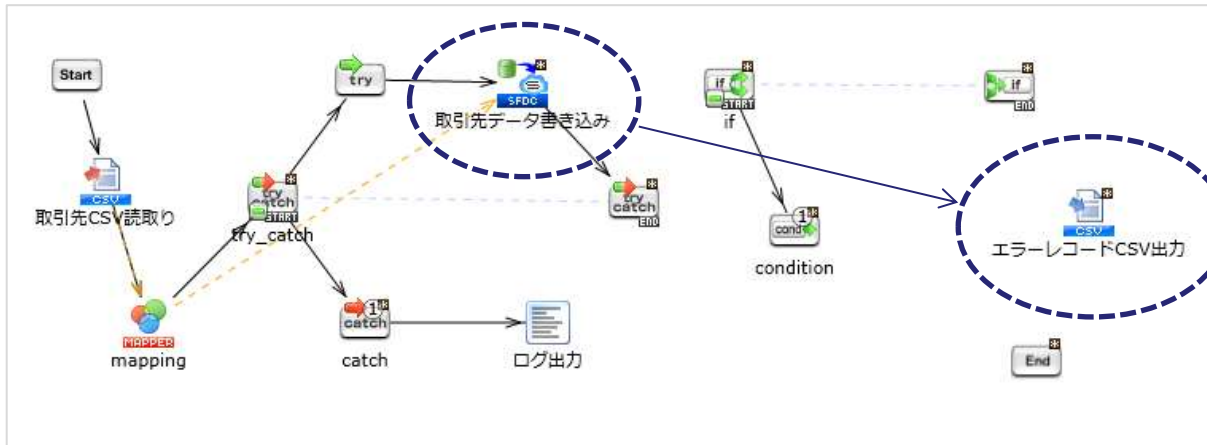
3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(6/11)

②エラーとなったレコードをCSVに出力

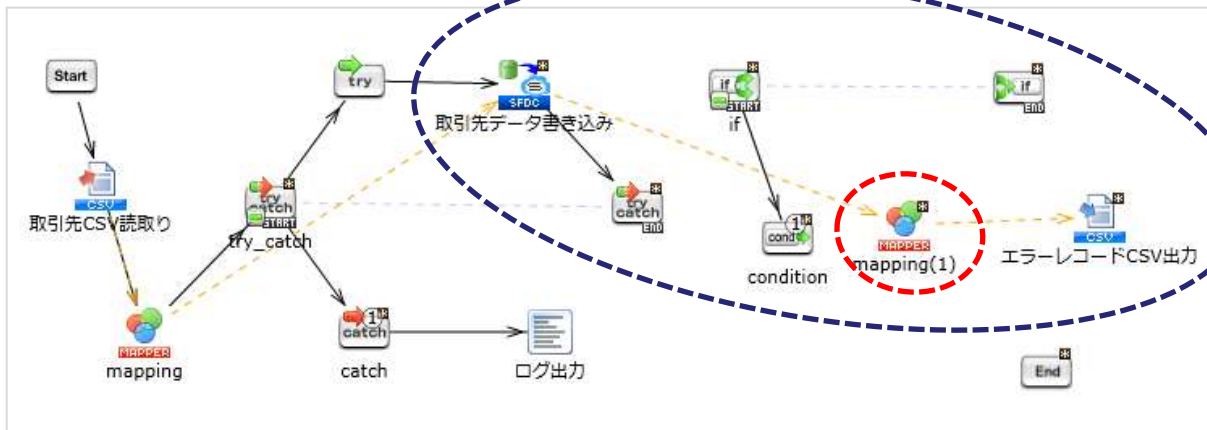
次に、データフローの設定・マッピングの設定を行います。

「取引先データ書き込み」アイコンから、「エラーレコードCSV出力」アイコンにデータフローを引きマッピングを設定します。

1.



2.



3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(7/11)

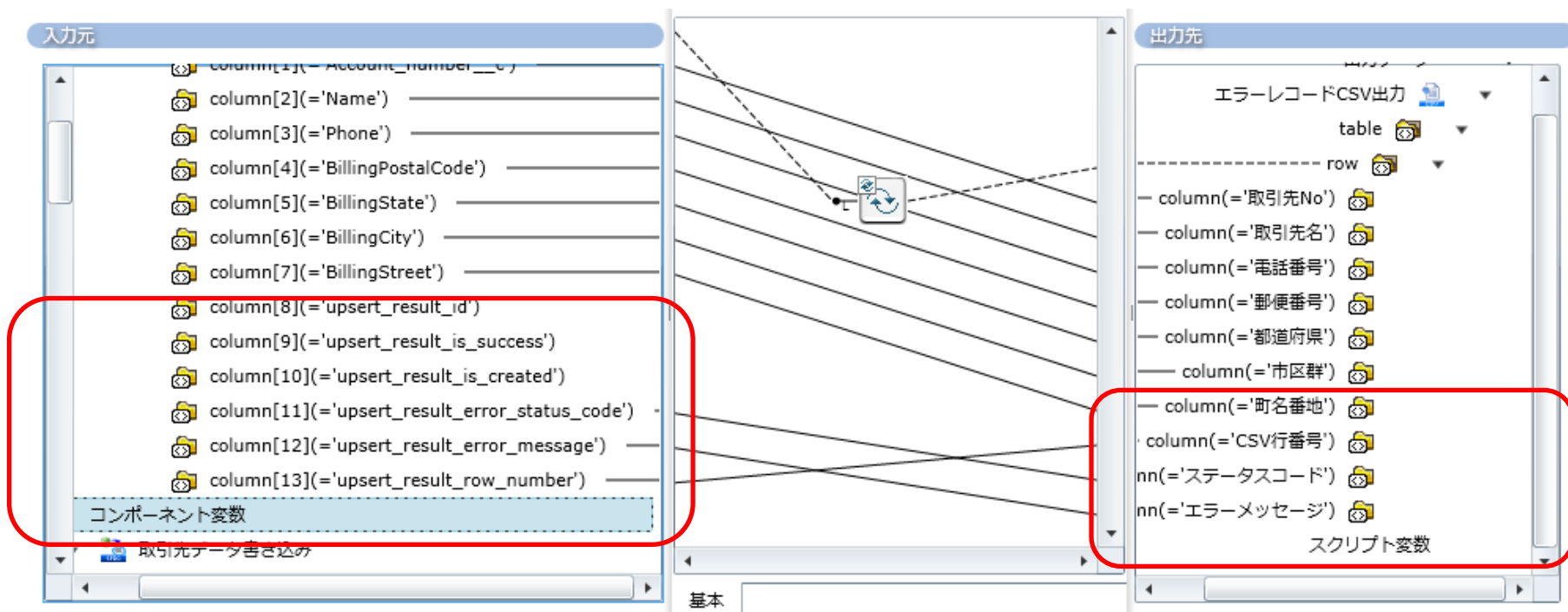
②エラーとなったレコードをCSVに出力

mappingアイコンをクリックし、マッピングの設定をします。

入力元の「取引先データ書込み」には、UPSERT更新項目に加え、取得した更新結果項目が並んでいます。出力先に項目追加した「CSV行番号」「成功フラグ」「エラーメッセージ」に更新結果をマッピングします。

入力元「取引先データ書込み」

出力先「エラーレコードCSV出力」



3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(8/11)



更新結果には以下の種類があります。

今回マッピングする項目は以下になります。

入力データ 列名	説明
⑥更新結果_エラーステータスコード (upsert_result_error_status_code)	SalesforceのAPIが返すステータスコードを出力します。
②更新結果_エラーメッセージ (upsert_result_error_message)	SalesforceのAPIが返すステータスコードを出力します。
③更新結果_行番号 (upsert_result_row_number)	入力スキーマに渡されたデータ内のノードの位置に基づいて番号を出力します。

その他にも、以下の更新結果が取得可能です。

④更新結果_ID (upsert_result_id)	SalesforceのIDを出力します。
⑤更新結果_新規作成フラグ (upsert_result_is_created)	新規作成フラグを出力します。 [true]:レコードが新規作成されました。 [false]:レコードの新規作成は行われませんでした。
⑥更新結果_成功フラグ (upsert_result_is_success)	成功フラグを出力します。 [true]:処理に成功しました。 [false]:処理に失敗しました。

②エラーとなったレコードをCSVに出力

今回は、エラーとなったレコードのみをCSV出力するので、ロジックアイコンを利用して、**更新結果_成功フラグが「false」のレコードのみをCSVファイルに出力するためのマッピング設定を行います。**

利用するロジックアイコン

①条件による抽出

ツールパレット> 繰り返し> 条件指定> 条件による抽出

- ・条件にマッチしたもののみ繰り返して出力します。
- ・1つ目のハンドラがグループを、2つ目のハンドラが真偽値を設定します。



②Not演算

ツールパレット> 条件> 真偽> Not演算

- ・入力真偽値の否定(NOT論理)を返します。



● nullオプション

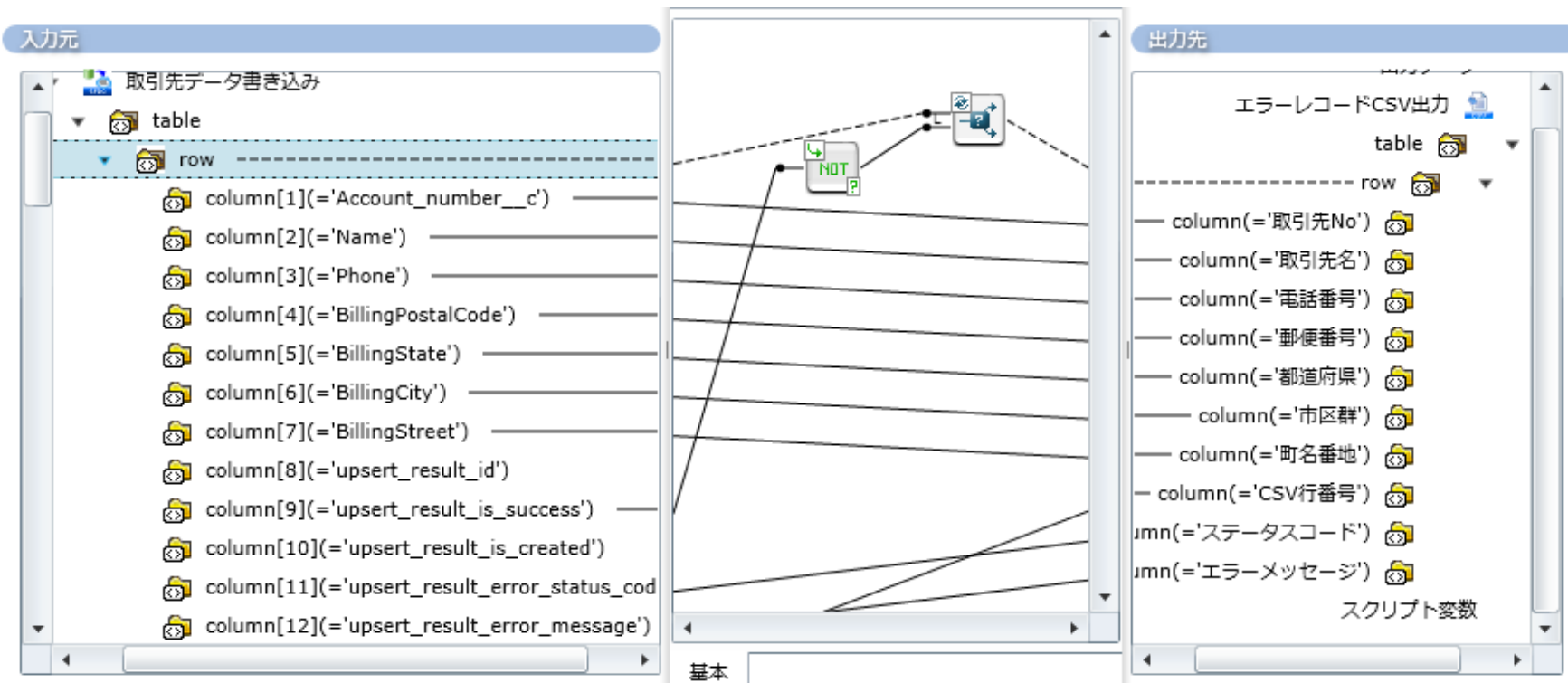
入力データにnullが含まれていた場合の処理を指定することができます。

- ① nullをfalseに変換オプション・・・nullをfalseに変換し、処理を継続します。
- ② 一方でもnullならばnullを出力する・・・入力ハンドラの一方でもnullの場合は、nullを出力します。

3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(10/11)

②エラーとなったレコードをCSVに出力

対象となる出力先項目にマッピングを設定します。



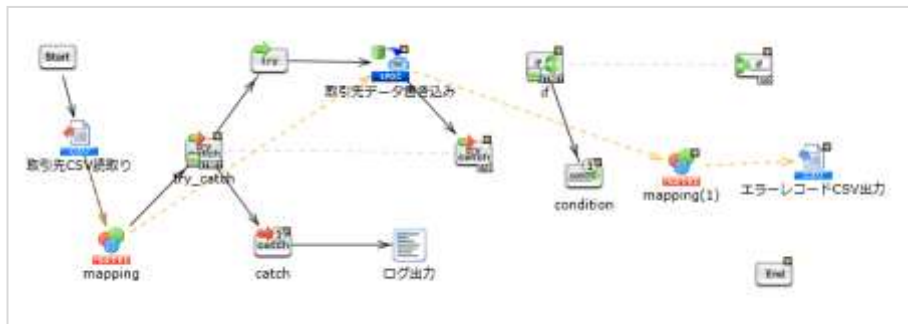
- ①項目「更新結果_成功フラグ」の値を「Not演算」ロジックアイコンで否定形にすると、「成功フラグがTrueではない(エラー)」という条件を指定することができます。
- ②「条件による抽出」ロジックアイコンで、①の条件に合致したレコードのみ繰り返し結果を返します。

3. UPSERTエラーへの対応処理を作成する(11/11)

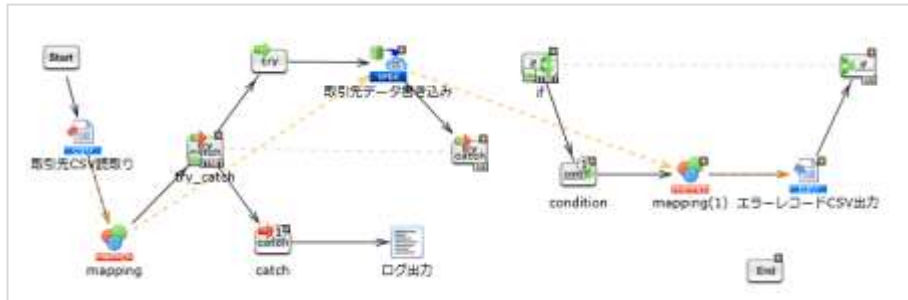
②エラーとなったレコードをCSVに出力

最後に、すべてのアイコンを以下のステップでプロセスフローをつなぎます。

1.

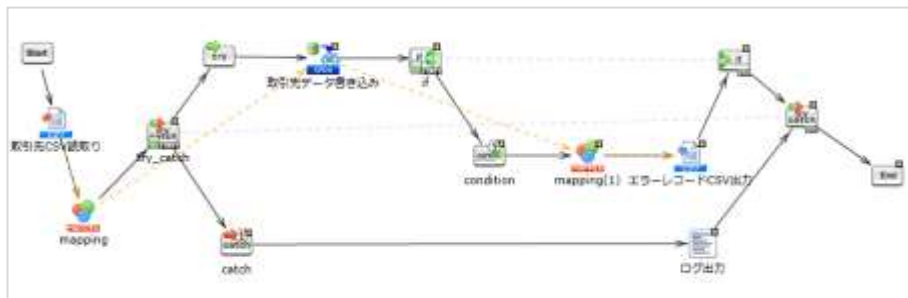


2.



条件分岐処理を完成させます。

3.



条件分岐処理を例外監視処理の中
に含めるようみ、プロセスフローを引きます。

これで設定は完成です！！

本日のゴール

- ・例外監視処理、条件分岐処理、ログ出力処理を組み合わせ、より複雑な連携処理の作成方法を学ぶ。

SkyOnDemandの活用事例が知りたい！

- ・ 1月29日(木) クラウド連携のスタンダード【SkyOnDemand】ご紹介 & 体験セミナー
第1部 ご紹介セミナー
▼お申込みはこちらから
<http://www.terrasky.co.jp/event/2015/0129-001.php>

SkyOnDemandを実際に試してみたい！

- ・ 1月29日(木) クラウド連携のスタンダード【SkyOnDemand】ご紹介 & 体験セミナー
第2部 体験セミナー
▼お申込みはこちらから
<http://www.terrasky.co.jp/event/2015/0129-001.php>
- ・ トライアル(1ヶ月)お申込み
▼お申込みはこちらから
<https://www.terrasky.co.jp/contact/trial/index.php>

その他ご質問事項

下記までお気軽にご連絡ください！

TEL : 03-5255-3411

Email: product.sales@terrasky.co.jp

～10回：応用編～

日時：2月10日(火) 16:30～16:55

<http://www.terrasky.co.jp/event/2015/0210-002.php>

作ってみよう②
実践的！高度な連携処理の作成 - 後半 -



**ご清聴ありがとうございました
アンケートにご協力ください。**

